

第6回 全国原子力発電所立地議会サミット

【テーマ】 21世紀のクリーンエネルギー ～その安全・安心・信頼～

報 告 書



と き：平成20年8月26日(火)～27日(水)

ところ：品川プリンスホテル(東京都港区高輪)

全国原子力発電所立地市町村議会議長会

第6回全国原子力発電所立地議会サミット

《 プ ロ グ ラ ム 》

第1日目 8月26日(火)

12:00～ 受付

13:00～14:00

開会式 (富士の間)

会長あいさつ

実行委員長あいさつ

来賓祝辞

経済産業大臣 二階 俊博 様

文部科学大臣 鈴木 恒夫 様

国会議員

全国原子力発電所所在市町村協議会会長 河瀬 一治 様

14:10～15:10

基調講演

「我が国のエネルギー供給における原子力の役割と責任」

講師 原子力委員会委員長 近藤 駿介 様

15:30～17:30

分科会

・第1分科会 [耐震設計審査指針見直しに伴う課題]

(会場 石鎚)

・第2分科会 [核燃料サイクル政策とプルサーマル]

(会場 大山)

・第3分科会 [国と原子力発電所立地地域との信頼関係]

(会場 浅間)

・第4分科会 [原子力施設の検査制度の見直しに伴う課題]

(会場 岩木)

・第5分科会 [地域共生と地域振興策]

(会場 大雪)

18:30～20:00

交流懇親パーティ (富士の間)

午
後

第2日目 8月27日(水)

9:30～10:10

全体会 (富士の間)

分科会報告

・第1分科会

・第2分科会

・第3分科会

・第4分科会

・第5分科会

国からのコメント

10:10～10:30

閉会式 (富士の間)

大会宣言

次期開催地代表あいさつ

閉会のあいさつ

午
前

開 会 式

開 会 宣 言



第6回全国原子力発電所立地議会サミット

副実行委員長

大熊町議会議長 石 田 忠 文

全国各地から当サミットのため、このように多くの皆様のお集まりをいただき、まことにありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。

それでは、ただいまから第6回全国原子力発電所立地議会サミットの開会式を挙行いたします。



主催者あいさつ



全国原子力発電所立地市町村議会議長会 会長

柏崎市議会議長 霜田 彰

本日とあすの二日間、400人を超えます原発立地の議会の議員の皆様、そして、電力事業者等関係者の皆様の御参加のもと、ここ品川プリンスホテルにおきまして、第6回全国原子力発電所立地議会サミットが行われますことを心よりお喜び申し上げますとともに、御来賓の皆様におかれましては、御多忙中にもかかわらず、このサミットに御臨席賜りました。まことにありがとうございます。

当議会サミットは、平成9年7月に第1回が行われまして、それ以後、隔年で開会がなされております。ことしで11年目でございますが、第6回を迎える運びとなりました。本来ならば、第6回のサミットを去年8月行うべく皆様には御案内申し上げ、諸準備をしていたところでございますけれども、平成9年7月16日、10時13分発生しました新潟県中越沖地震で柏崎市と刈羽村は甚大な被害を被りました。また、東京電力の柏崎刈羽原子力発電所も大きな被害を受けたわけでございます。稼働中の原子炉は「止める」「冷やす」「閉じ込める」の機能が正常に働き、原子力災害は免れました。しかし、変電所の火災、そして、微量ではありますが、放射性物質の漏えい、あるいは、情報のおくれ等、問題がありました。そういう意味におきまして、地震災害ということを考えていただきまして、ことしに延期をさせていただいたわけでございます。

去る7月、G8洞爺湖サミットが開催されまして、地球温暖化対策、そして、低炭素社会の実現に向けて議論がなされたところでございます。その結果、二酸化炭素を削減するためには、原子力発電が最も有効であるということで、世界の皆さんの認識がなされたわけでございます。日本においては、原子力発電を推進するためには、何としても住民の理解が必要でございます。そのために、国は前面に立って原子力発電の安全・安心を確立していただくと同時に、原発立地の地域振興、そして、原子力発電の将来像をしっかりと説明する責任を国策として国が十分に役回りを果たすことが強く求められているわけでございます。私ども立地自治体の議員は、地域住民の代表として、地域の振興と住民の生活の向上、安全を求めながら、原子力発電にかかわる諸問題を率直に議論し、その責務を果たすよう努力しているところでございます。

今回、「21世紀のクリーンエネルギー～安全・安心・信頼～」をテーマに、きょう、あす、二日間、皆様に御議論いただくわけでございますけれども、従来と同様にお互いに活発な意見交換、情報交換をしていただくようお願いする次第でございます。

最後に、当議会サミットに御出席いただきました皆様の一層の御活躍と、この議会サミットが実りある大会になりますよう祈念申し上げ、この主催者の代表としてのあいさつにかえさせていただきます。

実行委員長あいさつ



第6回全国原子力発電所立地議会サミット実行委員長
東海村議会議長 鈴木 昇

第6回原子力発電所立地議会サミットを開催するに当たり、実行委員会を代表いたしまして、一言ごあいさつ申し上げます。

本日は、大変御多用の中、国会議員を初め、全国各地の原子力にかかわる議会議員の皆様、並びに行政、原子力関係者など多くの御臨席を賜り、このように盛大に原子力サミットが開催できることに心から感謝申し上げます。

第6回サミットは、昨年8月に開催する予定でありましたが、7月16日にマグニチュード6.8の新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所等が停止することなど、大きな災害が発生したことにより、一年おくれの本日、改めて開催する運びとなりました。この地震の教訓から、原子力発電所に対する耐震安全性の評価はもちろんのこと、自衛消防、連絡体制、地元に対する情報提示などの多くの課題が浮き彫りになりました。国及び原子力事業者の課題等の対応のあり方は、地元議会にとって大変重要なことでもあります。早期の対応を望むところであります。

先日開催されました北海道洞爺湖サミットにおいては、クリーンエネルギーの推進がなされ、温室効果ガス削減対策として原子力発電が有効であることが再認識されました。世界的に増設計画が進められるとの報道がなされました。

さて、今回のサミットは、「21世紀のクリーンエネルギー～その安全・安心・信頼～」をテーマといたしまして、基調講演では、原子力委員会委員長、近藤駿介先生による「我が国のエネルギー供給における原子力の役割と責任」と題して講演をいただく予定です。その後、参加者の皆様には、五つの分科会において活発な意見を交換していただくこととなります。これまでの原子力サミットは、ともすると監督官庁に対する苦情等が多く見受けられることもありましたが、原子力サミットの意義を十分に理解していただき、せっかくの機会でもありますので、議員相互による議論の場になるよう期待申し上げます。

今回の原子力サミットが実り多い大会になりますよう御祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

来賓祝辞



経済産業大臣政務官

谷 合 正 明

皆様方におかれましては、日ごろより原子力政策に深い御理解と御協力を賜り、心から御礼を申し上げます。今年の原子力サミットは、新潟県中越沖地震の影響もあり、延期されましたが、このたび関係者の御尽力により、このように盛大に開催される運びとなりましたことを心からお喜び申し上げます。

原子力の推進は、何といても、まずは安全の確保が大前提であります。今年の新潟県中越沖地震では、柏崎刈羽原子力発電所において、「止める」「冷やす」「閉じ込める」という安全上、重要な機能は確保されたものの、自衛消防体制や情報の連絡・提供体制の問題、耐震安全性の問題については、皆様大変御心配をおかけいたしました。今年の経験も十分踏まえ、自衛消防や情報の連絡・提供については、地元消防機関等と連携するとともに、立地地域の皆様への携帯電話へ安全情報のメールを配信するなど、具体的な対策を進めています。また、耐震安全性に関しても、各電力会社などから新耐震指針を踏まえた耐震安全性評価の中間報告などの提出を受け、現在、原子力安全・保安院において、厳正に確認しているところであります。さらに、発電所ごとの特性や経年劣化に応じた丁寧な検査を行うため、来年をめどに新検査制度を導入することとしています。

近年、地球環境問題や電力の安定供給の確保などの観点から、世界的に「原子力カルネッサンス」の機運が高まり、原子力発電の重要性が再認識されつつあります。本年7月に閣議決定された「低炭素社会づくり行動計画」では、2020年をめどに、「ゼロエミッション電源」の割合を50%以上とすることとされていますが、この目標を達成するためにも原子力発電の役割は不可欠であります。当省といたしましても、このように地球環境や電力安定供給の観点から、極めて重要な原子力発電の着実な推進が大きな課題であると認識しており、立地地域の皆様方との共生や幅広い御理解をいただくための広聴・広報などに最大限努力してまいります。

最後に、我が国のエネルギー政策に対する皆様のさらなる御支援・御協力を賜りますとともに、原子力発電所立地市町村議会議長会の今後のますますの御発展と、本日、御列席の皆様方の御活躍を祈念いたしまして、私からのごあいさつとさせていただきます。



文部科学大臣

鈴木恒夫

(代理 大臣官房審議官 桜井繁樹)

第6回全国原子力発電所立地議会サミットの開催に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

まず、昨年の中越沖地震の影響で延期となっておりました本サミットが、本年無事開催されますことをご喜び申し上げます。全国原子力発電所立地市町村議会議長会の皆様におかれましては、日ごろより我が国の原子力研究開発利用について、御理解と御協力をいただくとともに、原子力施設が立地する地域の住民の皆様からの御意見を反映する市町村議会のお立場から、貴重な御意見をちょうだいしておりますことに深く感謝申し上げます。

近年、原油価格が高騰し、また、地球温暖化を初めとする環境問題への懸念が高まる中、世界各国において原子力が再び脚光を浴びており、いわば原子力カルネサンスの潮流にあると言えます。7月に開催された洞爺湖サミットにおいても、温室効果ガスの削減に向けた取り組みとして原子力の重要性が指摘されております。そのような中で、文部科学省においても原子力政策大綱等にのっとり、安全確保を大前提としつつ、原子力の研究開発を着実に推進しております。

特に、国家機関技術として選定されている高速増殖炉サイクル技術は、本年5月19日に総合科学技術会議において取りまとめられた環境エネルギー技術革新計画において、低炭素社会の実現に向けた革新的技術の一つに位置づけられており、着実に研究開発を進めていく必要があります。この研究開発の場の中核と位置づけられる「もんじゅ」については、日本原子力研究開発機構において、現在、プラント全体の確認試験を実施しており、早期の運転再開に向け、引き続き立地地域を初めとする皆様の御理解と御協力を得つつ、安全確保を大前提に着実に進めてまいります。

また、東海村において建設中の大強度陽子加速器施設「J-PARC」については、本年12月のビーム供用開始に向けて建設が進められております。完成後には、基礎研究から産業利用に至るまで幅広い分野での活用がなされるよう努めてまいります。

原子力の研究開発利用を安全かつ着実に進めるに当たっては、すぐれた人材の養成と確保が極めて重要です。文部科学省では、経済産業省とも連携しつつ、原子力人材育成プログラムにより、大学及び高等専門学校における原子力人材育成の支援を図っております。また、初等・中等教育段階においても、児童生徒一人一人が原子力エネルギーについての正確な知識や、みずから考え、判断する力を身につけることができるよう、環境整備に努めてまいります。

申すまでもなく、原子力の研究・開発利用に当たっては、国民の皆様、中でも立地地域の皆様の御理解と御協力なくしては進めることはできません。文部科学省といたしましては、安全の確保を大前提に、立地地域を初めとする国民の皆様に対し、わかりやすく情報を提供するよう、

さまざまな工夫をしつつ、情報公開の徹底に務めるとともに、立地地域と原子力施設の共生の観点から地域の発展に貢献してまいります。

結びに、今後とも皆様の御指導・御協力を賜りますよう改めてお願い申し上げますとともに、御臨席の皆様のみすますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

（挨拶）



（以下は非常に薄い文字で印刷された挨拶文の続きと思われる内容です。読み取れず、意図的にぼかされています。）